

受理番号及び 受理年月日	所 管	件 名 及 び 要 旨	提 出 者
27 年－ 31 (27. 11. 25)	生活環境	<p>「星空のツリー」の実現について</p> <p>▶陳情趣旨</p> <p>現在、鳥取の海を思わすイルミネーション「青きジオの世界」が鳥取市の主催で行われているが、もし計画が中止となっていなければ「星空のツリー」が鳥取の夜に見られるはずであった。しかし、「星空のツリー」計画は鳥取県内の組織及び団体ではない NPO「国際ダークスカイ協会」東京支部による生態系や天体観測の阻害などを懸念する表明文や、県内外の反対によって、今年 5 月 29 日に鳥取市は計画の中止を発表した。</p> <p>確かに、当初出された「星空のツリー」計画は、そのイベント開催期間が 10 月 31 日から翌年の 1 月 3 日の 65 日間であることや環境に負荷を及ぼすことに対する還元手段や方法がないことから、光害を懸念して環境保護団体や市民からの反対が寄せられる事は必至であっただろう。しかしながら、鳥取市は計画自体を取りやめて白紙にする必要はなかったと考える。まず今回、このような反対が寄せられたのは、主催者の鳥取市が市民に対する情報公開を怠った事があげられる。反対され計画が中止されるまでに「星空のツリー」について情報発信がなされた情報は、開催期間・会場の場所・観覧料金・星空のツリーについての簡単な説明である。環境に関する様々な情報や、星空のツリーを実施する明確な時間帯について情報発信がなされなかった事は反対の声を増やす一因となったであろう。次に反対が寄せられた理由として、環境に配慮していないと言わざるを得ない開催期間の長さではないか。限られた時間帯とはいえ、65 日間も光を投射することになれば、生態系への悪影響を及ぼす事は明らかである。「星空のツリーを実施する」と公に発表した以上、主催である鳥取市にはこれらの問題点を踏まえて、再度、計画を作り直して環境にも配慮したよりよい「星空のツリー」を実現する事に尽力するべきであった。しかし鳥取市は、鳥取県内でない団体からの表明文や鳥取県外からの反対意見を重視し「星空のツリー」計画を白紙にしてしまった。多くの鳥</p>	まちづくりグループ未来をぼくらの手で鳥取 グループリーダー 富井 篤 弥

取県民や市民がこの「光のツリー」を楽しみにしていたのに、それを安易に取りやめることは無責任であると言える。また、この「星空のツリー」計画はより集客性が高く商品化しやすいイベントとして審査において満場一致という高い評価をされて決定された計画から、実際に行えば経済効果は今開催されているイベントよりもずっとあったと言える。「星空のツリー」という確実に話題性に富んだ媒体を使えば、鳥取県により多くの観光客を呼び込め、秋季から冬季の鳥取県の観光収入を通常より大きく上回ることが可能であったのに、それを取りやめることは甚だ勿体無い事である。加えて、「星空のツリー」計画で問題となった光害についても、「星空のツリー」で得られた収益で、今後の光害防止費に充てたり鳥取砂丘の環境保全費に充てたりする事で、還元という形で問題を解決することが可能であったと言える。

以上から、「星空のツリー」がより多くの観光客を呼び込む手段であったり秋季冬季の観光収入を増加させたりするなどの好影響をもたらす計画であるのにも関わらず、この計画を進める事が出来なかった鳥取市に代わって、鳥取県には計画の主催となって、「星空のツリー」実現を強く進めて欲しいと願い、陳情した次第である。

▶陳情事項

- 一、鳥取市が当初主催していた「星空のツリー」計画について、鳥取県が主催となり「星空のツリー」を 2016 年に砂の美術館の展望広場で実現していただきたい。
- 二、星空のツリーについては、当初予定されていた、10 月 31 日から年明けの 1 月 3 日までではなく、環境に配慮してクリスマスシーズンである、2016 年 12 月 3 日、4 日、10 日、11 日、17～26 日で行い、また光の強さを含め、光を照らす時間も生態系や環境に最大限に配慮して午後 8 時 30 分から 9 時 00 分で実施していただきたい。
- 三、「星空のツリー」で得られた利潤の一部は、鳥取県の光害防止費用や鳥取砂丘周辺の環境保全費用に支出し、イベントで発生した環境負荷を還元していただきたい。